漢検

2024年度 第3回 日本漢字能力検定 試験問題

準1級

検定日 2025年2月16日

(公財)日本漢字能力検定協会

〔不許複製〕

氏名

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙（答案用紙）に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みを**ひらがな**で記せ。1〜20は**音読み**、21〜30は**訓読み**である。 (30) 1×30

1 荘重な曲が奏され賞牌が授与された。
2 いつもより入念に粉黛を施す。
3 都育ちの蟬蜎たる女性をめとった。
4 織物の素材に苧麻の繊維を使う。
5 雨後の山の翠微を眺めていた。
6 アシやススキは禾本科に属する。
7 園に芋栗を収めて未だ全く貧しからず。
8 興に乗じて毛穎を弄し狂文を作した。
9 若年にして白髪すでに揖揖たり。
10 御清穆の段お喜び申し上げます。
11 野良着を戎衣に替えて出征する。
12 既に幾度も晦朔を繰り返した。
13 古蹟から大量の貝貨が出土した。
14 畏れ多くも賜餐の栄に浴する。
15 兼ね兼ね女婿に迎えたいと望んでいた。
16 這裡の消息は容易に理会しうる。
17 鳶肩の門衛に誰何された。
18 読者諸彦の御批正を乞う。
19 巽位に火の手が上がり忽ち拡がった。
20 諸国諸方を巡錫し説法し続けた。

21 柾目の和箪笥をあつらえる。
22 選別した種籾を貯蔵する。
23 曰(いわ)く言い難い謂れがある。
24 どこぞから箭の入りそうな事じゃ。
25 時流をはるかに挺いている。
26 苫に寝(い)ね戟を枕とす。
27 いつになく尖り声で不平を鳴らす。
28 万物衆ければ知以て之を奄うに足らず。
29 姫君の御裳着のことをこそはと思す。
30 我が心は則ち夷らかなり。

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。その**表外の読み**を**ひらがな**で記せ。 (10) 1×10

1 偏に私の不徳の致すところです。
2 生死を共にすることを盟い合った。
3 この商品は散ではお売り致しかねます。
4 着物を解いて縫い直す。
5 閑人の無用の遊びにすぎません。
6 初編の首めに有名な件がある。
7 御加勢実に辱い。
8 形ばかり人並み以上でお恥ずかしい。
9 ほとほと枢をたたく音がする。
10 折角だが卒かには賛同し難い。

(三) 次の**熟語の読み**（**音読み**）と、その**語義**にふさわしい**訓読み**を（送りがなに注意して）**ひらがな**で記せ。 (10) 1×10

〈例〉健勝……勝れる → けんしょう ／ すぐ

ア 1 弼匡 …… 2 弼ける
イ 3 瑞祥 …… 4 瑞い
ウ 5 蕃息 …… 6 蕃える
エ 7 違戻 …… 8 戻る
オ 9 舛馳 …… 10 舛く

(四) 次の各組の二文の（　）には**共通**する漢字が入る。その読みを後の□から選び、**常用漢字**（**一字**）で記せ。 (10) 2×5

1
今も村の（1）碑が残る。
（1）舌の徒を嫌忌する。

2
（2）止に乱れや弛みがない。
温（2）だが威厳もある。

3
すでに（3）命を迎えた。
故（3）にならって身を処する。

4
俺にはそんな芸（4）はできない。
地の塩たることを己の（4）為とする。

5
仮借なく非（5）を検察する。
師説に（5）背する結果になった。

い・がん・こう・じん
せき・ち・とう・よう

(五) 次の傍線部分の**カタカナ**を**漢字**で記せ。 (40) 2×20

1 日夜モンモンとしていた。
2 経営がヒッパクし金策に狂奔する。
3 デザインが見るからにアカヌけている。
4 多くの兵士が無言のガイセンをした。
5 叔母の家に暫くキグウしていた。
6 ダエン形の大皿に酒肴を並べる。
7 神のオンチョウに相違なかった。
8 まことに小生のキンコウとする所です。
9 一男二女をモウけた。
10 急ぎオモカジを取って衝突を回避した。
11 開き窓のチョウツガイが錆びている。
12 タンペイキュウに結論を出す。
13 旧習にケイバクされて自由が利かない。
14 リュウビを逆立てて夫に詰め寄った。
15 涼しい顔でゴウサラしな真似をする。
16 他人の隠し事をホジクり出そうとする。
17 社運がチョウラクの一途をたどった。
18 寝食を忘れシシとして勉学に励む。
19 これではシシに鰭で手がつけられない。
20 シシ相承によって現在に伝わっている。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(六) 次の各文にまちがって使われている**同じ音訓の漢字が一字**ある。**上に誤字を、下に正しい漢字**を記せ。 (10) 2×5

1 彼女の披露した超絶的美技に恰も奇蹟を目の辺りにしたが如く驚頭した。

2 斯界の泰斗が内外の文献を渉猟し概博な学殖を注いだ労作が上梓される。

3 国家財政綻の危態に際会し民衆は強力な指導者の出現を待望していた。

4 倶に棋界の麒麟児と喧伝された当初は双方の力量に然程軒隔は無かった。

5 貴兄の流麗且つ雅醇なる格調高き文章は吾人の讃歎措く能わざる所に候。

(七) 次の**問1**と**問2**の四字熟語について答えよ。 (30)

問1 次の四字熟語の(1〜10)に入る適切な語を後の□から選び**漢字二字**で記せ。 (20) 2×10

(1)走牛	因循(6)
(2)竹葦	魚目(7)
(3)春意	伏竜(8)
(4)群吠	生死(9)
(5)櫛比	古色(10)

えんせき・こそく・じだい
そうぜん・とうま・ぶんぼう
ほうすう・まんこう・ゆうけん
りんじ

問2 次の1〜5の**解説・意味**にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍**線部分だけの読み**を**ひらがな**で記せ。 (10) 2×5

1 迷悟の一如であること。

2 気楽な隠居生活の例え。

3 画工の自在な技巧の表れ。

4 訪れる人もなく寂しい様子。

5 丈の異なる物が入り交じるさま。

門前雀羅・落筆点蠅・竹頭木屑
獣蹄鳥跡・参差錯落・含飴弄孫
酒嚢飯袋・煩悩菩提

(八) 次の1〜5の**対義語**、6〜10の**類義語**を後の□の中から選び、**漢字**で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。 (20) 2×10

対義語

1 静寧
2 肝要
3 楽天
4 斬新
5 凝視

類義語

6 秘訣
7 経緯
8 開智
9 稽首
10 色目

えんせい・けいもう・こうとう
さまつ・しゅうは・そうじょう
ちんとう・てんまつ・べっけん
ようてい

(九) 次の故事・成語・諺の**カタカナ**の部分を**漢字**で記せ。 (20) 2×10

1 **ヒシヅル**ほど子ができる。

2 **ミス**を隔てて高座を覗く。

3 越鳥南枝に巣くい、**コバ**北風にいななく。

4 **テップ**の急。

5 千里の馬は常に有れども**ハクラク**は常には有らず。

6 **ヒゲ**も自慢のうち。

7 **エイジ**の貝を以て巨海を測る。

8 **センダン**は双葉より芳し。

9 累累として**ソウカ**の狗の如し。

10 **サイシン**の憂い有りて朝に造る能わず。

(十) 文章中の傍線(1〜5)の**カタカナを漢字**に直し、波線(ア〜コ)の**漢字の読みをひらがな**で記せ。 (20) 2×5 1×10

A たいていの人が先生の書物は難解であるという。しかしその**キョウジン**[1]な論理を示す文章の間に、突然魂の底から迸(ほとばし)り出たかのような啓示的な句が現れて、全体の文章に光を投げる。それまで難解をかこっていた読者は急に救われたかのような思いがして、先を読み続けてゆく。

弟子たちの研究に対しては、先生はめいめいの自由に任されて、干渉されることがない。その点、**ムトンチャク**[2]に見えるほど寛大で、一つの型にはめようとするが如きことはせられなかった。先生は各人が自分の個性を伸ばしてゆくことを望まれて、徒[ア]に先生の真似をするが如きことは却って苦々しく感じられたであろう。こんなことをやってみたいと先生に話すと、先生はいつでも、「それは面白かろう」といって、それに関聯[イ]していろいろ先生の考えを述べて下さる。そんな場合、私は先生に対して善いお父さんといった親しみを覚える。誰でも先生の威厳を感じはするが、それは決して窮屈というものではない。そんなところに先生の豪[ウ]さがあると思う。

(三木清「西田先生のことども」より)

B 年々の不出来、強(あなが)ち杜氏の所為にはあるまじ。然(さ)れど勝負事にも座を換うるの例、今年は縁起直しに倉男(くらおとこ)一同を改めて見んとて、小十年近く会所部屋を預けたる去年までの杜氏は、夏倉の了わると与(とも)に体可[エ]く暇を取らせ、新たに三州寺津在より傭[オ]い入れたるは**ホテイバラ**[3]の源作とて、十八の暁甑[カ]切り人足より仕上げて、爰(ここ)に三十余年が間、絶えず倉働きの普[キ]く世間を渡り杜氏なり。酛米(もとまい)も大方精[ク]げ了わりて、寒前四十日目は仏滅に当たればとて、一日延[ケ]ばして、霜月二十八日、大安万吉という日弥倉開きと定まりぬ。杜氏の源作は早速己(おの)が在所の年寄りへ其の旨を言い送れば、予[コ]ての**テハズ**[4]、直ちに代師、倉働き都合八人の人足を**マト**[5]めて、二十七日の午少し過ぐる頃、はや会所の火鉢場にどやどやと入り来りぬ。

(小栗風葉「亀甲鶴」より)

― おわり ―